

# 玉梓

w/m: 戸塚絵理

---

結びし玉梓 結びし玉梓 ほぐれるな

夕明かり葉かげより 恋ひ初めし横顔  
その先は 綱渡り 白昼に見し夢

迦陵頻伽のさえずる毘廬遮那

盛りを過ぎた 夏の夜風が  
ふよふの花を次々落とす  
もひとつ先の季節をここで  
あなたと迎えたい あーあ

幾重にも玉梓に 結びこめし想い  
重なりし結び目に ほころばす心

精霊宿る 久遠のまほろば

時刻のズレた鐘の音色が  
毒もトゲも葵にかえる  
いくつも先の彼岸をここで  
あなたと迎えたい あーあ

梓の枝に想ひをこめて  
来々世までの縁(えにし)を願い  
作る結び目 あなたもどうぞ  
きつくきつく重ねてね

うつろいやすきこの世はかなみ  
降りしきる晩夏の蝉時雨  
恋しき人の面影だけは  
どうかどうか消さないであーあ

結びし玉梓 結びし玉梓 ほぐれるな

## <楽曲説明>

「なんじゃ、この紐をくくった棒っきれは？」

「姫さま、そちらはあづさの守さまからの恋文にござります。」

「姫さまがあづさの守さまのお気持ちをおくみとりになられますならば、その結び目にさらに結び目をおつくりください。

万が一、おことわりされますならば、結び目をほど…」

「すぐにほどいてお返しせよ」

秒速でフラしたあづさの守が女言葉でつづったのがこの歌。